

NICE VIEW(ナイスの視界)7.A=ART(アート)&AROUSE(アロウズ)の  
 EVENTURE(イベントアージュ)の  
 VOICE(ボイス)の  
 ISSUE(イシュー)の  
 I(アイ)の  
 12年7月号

# ナイス

vol.65

復興祈願

発行日 2012年7月1日  
 創刊日 2007年1月1日  
 発行 株式会社ナイス  
 発行人 代表取締役 富田一幸  
 印刷所 尚前山企広  
 住所 大阪市西成区長橋3-6-33  
 電話 06-6563-1156  
 E-mail info@nice.ne.jp  
 HP http://www.nice.ne.jp/

復興祈願

⇒詳しくはダイアログをご参照ください



## 復興祈願

5月25日～27日の3日間、岩手県へ被災地ボランティアに行ってきました。今回は8人での活動となり、5名が西成支部青年部から、3名が西成の製靴塾からの参加でした。私個人は初の被災地ボランティアになります。

活動内容は、青年部は主に仮設住宅にお住まいの方々を対象とした、たこ焼きやお好み焼き、焼きそばやバーベキューなどを調理し食べていただくというものです。製靴塾メンバーは、仮設住宅の一室をお借りし、皮アクセサリーを作るワークショップを行いました。

取材：安田 壽斗

### 初日

岩手県にある花巻空港到着後、まず昼食をとるために復興食堂に向かいました。

復興食堂には、その土地の名物となる食材が使われた料理が多数メニューに記載されており、まぐろや鮭を使った丼ぶりものやうどんなどが販売されていました。多く

の有名人やボランティア団体がその復興食堂を訪れているようで、写真やサインなどもたくさん飾られていました。そこでおいしく昼食をいただきました。

復興食堂を後にし、翌日に控えた活動の準備のためスーパーでの買い物をしたり、たこやきなどに使う食材の仕込みをしたりして初日は終了。



### 二日目

早朝から出発し、宿泊施設から少し離れた仮設住宅へと向かいました。現地到着後はたくさんの食材を選び、各々準備に追われました。途中さまざまなハプニングも起こりましたが、現地の業者の方のお手伝いいただき、何とか無事に準備を終えました。今回の活動には、学生ボランティアとして、大学生と高校生の二名が来てくださったのですが、二名もしっかりと動いてくれて本当に助かりました。たこ焼きやお好み焼きも食べてもらい「おいしかったです!」との言葉もいただきました。

当日は、「東北六魂祭」という現地のイベント日程と重なってしまい、さらに、近くの小学校の運動会とも重なり、そのお祭りや運動会に参加することが困難な方々が私たちの活動に参加してくださいました。皆さん笑顔で会話してくれて、とても嬉しそうに私たちが作ったものを食べてくれました。製靴塾メンバーが行ったワークショップにも、多くの人々が参加していただけたようで、「今度は靴を教えに来て!」とお願いされたほどでした。

今回の活動の中で、数人の方から現状を少しだけ聞くことができました。仮設

住宅で暮らしている方同士は交流があまりなく、笑うこともほとんどない、現在は支援のニーズが「がれき撤去」から「交流」に変わりつつある、とのことでした。そういった話をしてくださった方が「こうやって笑うことが久しぶりでとても嬉しいです」と話してくれたことで、こういった活動の大切さや重要性を再認識できました。そして、この活動に参加できて本当によかったなと思いました。

活動の帰り、陸前高田市等の沿岸部を通過して花巻市に向かっていたのですが、道中で陸前高田市の役所付近で車を止め視察しました。陸前高田市は津波による被害が甚大な地域で町の建物がほとんど流されてしまっている状況でした。がれきやスクラップと化した車は山のように積み上げられていて、普段の生活では考えられない光景が広がっていました。市役所周辺にはぬいぐるみやナンバーブ



山のように積み上げられた車



しかし、被災地に直接行くことにより報道によって抱いていた考えはまだまだ浅いものだと感じました。現場に行くと、テレビで見るものとは比べものにならないくらいの現実を知ることができます。そして、その現実を知り、改めて恐怖心を抱き、何とも言えない気持ちの変化がありました。ポロポロになってしまった市役所の階段をみて「ここを職員の方は走って津波から逃げたのか」と考えていると、本当に鳥肌が立つくらいの恐怖を感じました。

日を追うごとに報道は少なくなり、まだまだ支援が必要な地域についても人々は少しずつ気持ちが落ち込んでいくのではないかと私は思います。報道は日々薄れていき、人の記憶も共に薄れていくでしょう。なので私は、まだ現地を見たことがない人は、現地を自分の目で見て、直接たくさんのことを感じてほしいと思いました。そして見たことや感じたことを周囲の人々に話してほしいと思います。より現実的なことを多くの人々に伝えていくことが、私たちにできる一番身近な支援になるのではないのでしょうか？

内面的な部分は未だ元通りには戻っていません。そういった部分も踏まえ前向きに頑張る現地の方々には本当に頭がさがりました。私たちにできる範囲でのさらなる支援を行っていく必要があると思いました。その後もいろいろな地域を視察し、多くの現実を目の当たりにしました。道路に打ち上げられた大きな船や、世間でも有名な「奇跡の一本松」も実際に自分の目で見ることができました。



道路に打ち上げられた大きな船

### ボランティアを通じて

自分の目で被災地を視察し、被災された方々と直接関わり、ボランティアとして何かを提供させていただいたことが自身の考え方を大きく変えてくれました。

地震発生直後から、日本中で震災の報道がなされ、凄惨な爪痕を放送してきました。私はその報道を見て、地震や津波の恐ろしさ、原発による被害、防災意識についてを改めて感じ、考えてきました。

レートなど、日常生活で落し物としてあまり見ることのないものが多数落ちており、被害状況がストレートに伝わり胸が痛くなる感覚を覚えました。また、市役所の中には津波に流され泥をかぶり、ボロボロになってしまった車が二台ほどあり、書類なども散乱している状況でした。市役所内の砂がサラサラになっていたことから、津波が起きて以来、月日が経過していることを改めて直接肌で感じました。



津波の被害にあった建築物

この地域を視察したことは本当に衝撃の連続で、多くの人に伝えていくべきことだと思いました。地震・津波というものの被害を直接目で見て肌で感じたことは、書ききれないほどのショックと自然の怖さを教えられたような気がします。

しかし、ショックを受けることばかりではありませんでした。市役所前に「復興祈願」と名付けられた千羽鶴たちがありました。私はこの千羽鶴を見たときに千羽鶴に込められた願いがすごく伝わっ

てきてとても感動し、今月号のなびの表紙にさせていただきました。この思いを一人でも多くの人に理解していただけたらと思います。

### 三日目

製靴塾の方々も諸事情により午前で大阪に帰らなければならなかったため、少し早めに彼らと解散しました。その後、私たち青年部のメンバーは宮城県気仙沼市まで視察に向かいました。

気仙沼市も地震や津波の被害が甚大な地域で、当初たくさんの民家などの家屋が倒壊してしまいました。しかし、現在ではがれきや泥は整備されていて、現地の人々の営む復興商店街ができていました。飲食店や衣料品店などの店舗が二階建ての仮設住宅で営業しており、その商店街で昼食をとりました。がれきや泥が整備されているとはいえ、人々の生活や



復興商店街



## 第9回 股ヶ池



股ヶ池明神の  
扁額

私が小学生の頃によく遊んだ「ももがいけ公園」の表示は、現在「桃ヶ池公園」\*と書かれています。しかし、この公園前にあった平野線（廃線）の駅名は「股ヶ池駅」でした。私は、だから「桃ヶ池」ではなく「股ヶ池」があたりまえとして記憶しており、時折地理に不案内な人が「またがいけ公園」と読み、笑われていたことを覚えています。時が経ち、今では股ヶ池ではなく桃ヶ池が公称です。しかし、昭和町方面から公園に入ってくる突先（はこ）に祠があり、この社（やしろ）だけは今も「股ヶ池明神」と表示され、従来からの伝統ある股ヶ池という名称が生きているのです。



股ヶ池明神

現在、この池の北側を阪神高速松原線、地下を地下鉄谷町線が走ります。これらの公共財がまだ整備されていないこの時代、ここにチン電である旧南海平野線が走っていました。平野線は、現存する上町線や阪堺線に加え、平野駅から天王寺駅方面および、平野駅から恵美須町駅方面に向かう2つのルートを担当

ていました。

そのころのチン電は、上町線、阪堺線の今でこそポップでキッチュなデコチン電とは程遠く、濃い緑色のシンプルな車体を左右にフリフリしながら「股ヶ池駅」に到着する姿を、悪ガキどもは愛情さえ感じて眺めていたのです。

「股ヶ池駅」には遮断機がなく、電車が近づくとチンチンチンと鳴る警報機がありました。私たち悪ガキは、電車が近づくとなぜ警報機が鳴り出すのか不思議で、確認のため実験してみましたということになり、金属片を持った4、5人がレールの上に並び、そいつをレールに置きながら摩擦し始めました。一生懸命腕を動かしているうちに、警報機の警報音がチンチンと小さな音を発し始めたのです。さらに摩擦を続けていくと、警報音はどんどん大きく響き、まさに電車の接近時と同じ高さの音になっていくのでした。電車も来ないのに警報音だけが鳴り響くものだから、ガキどもは徐々に怖くなり、クモの子を散らすように四散し、勿論その中のひとりが私でした。

「股ヶ池駅」にまつわるもうひとつのエピソード。誰でも一度くらいは経験している遊びかもしれませんが、かき集めてきた釘を線路上に並べ、電車が通り過ぎると重い車体に踏まれた釘は、当然まっ平になっているのだけれど、それを見て面白がっていたのです。今から考えればかなり危険なことを平気でやっていたものだと思います。

チン電の「股ヶ池駅」前の線路を越え、池に沿って橋を渡るとそこが「股ヶ池公園」で、

この公園を取り巻くように池が4つに分かれています。それぞれの池は橋によって区分されているように見えますが、池自体はひと続きなのです。「股ヶ池」という名称は、いくつか股のように枝分かれするさまからつけられた名称ですが、「桃ヶ池」という名称では、その場所独自の形状と言うか雰囲気こそぎ落とされるように思います。

公園の中には、1基のスベリ台とブランコ、藤棚（今もある！）、そして鉄棒があったように思います。広いグラウンドではよく野球をしました。父は日曜など暇な時、私や妹2人を連れ、よく「股ヶ池公園」へ散歩に連れて行ってくれました。



桃ヶ池公園

冒頭にも記した「股ヶ池明神」は、公園の西側いちばんはずれにあります。聖徳太子が股ヶ池に出没する大蛇の遺体を股ヶ池の南に浮かぶ蛇島に埋葬したと伝えられている神仏混交の神社です。この神社の守り人はいません。その日やはり親父が私たちを連れここに遊びに来た時のこと、歩き始めた末妹が奉納していた油揚げをつかんで口に入れて食べかけたのです。とっさに父は妹の口から油揚げをとりあげ、早々と神器へ戻していました。なんとバチ当たりなこの椿事は、今でも末妹に会うたび話題になり、大笑いするのです。

「股ヶ池」エピソードをもうひとつ。股ヶ池

には貸しボート屋さんがありました。私はボートに乗るのが好きで、貸しボート代などなく時おり人に乗せてもらい池を一周したりしました。当時、離島である蛇島の周辺にはおびただしいハスの葉が繁茂し、犬の死体なども浮かんでいて、ここだけはあまり行きたくない場所でした。（今もハスはすぞい！）しかし、考えてみるとこの場所はボートがいけなかったのだとこれを書きながら思い出しました。橋の高さが舟を通さなかったからです。

貸しボート屋のオヤジは、子どもたちから「監督」と呼ばれて恐れられていました。ボートが時間通り帰らなかったりすると、大声で「早よもどってこい！」と怒鳴り散らすのです。ボートを監視、監督していたのでこんな名前がついたのだと思います。



中央奥の藤棚は貸しボートのあったところ

「股ヶ池」という名称は、近年桃ヶ池として定着し、春は桜の花が満開となりますが、私の子どもの頃には、あんなにたくさんの桜が咲いていた記憶はありません。2000年の頃、公園野宿者への聞き取りのため股ヶ池公園に通い、40年ぶりに少年時代の公園に立ち、とんでもなく遠いところにきたものだと思いにふけりました。

\*1933年10月、桃ヶ池公園として開園する。都市計画法に基づき区画整理で完成した公園としては日本で初めてのもの」と伝えられている。

障がい者雇用の事業協同組合エル・チャレンジと一般社団法人の大阪ビルメンテナンス協会は、「政策入札研究フォーラム」をやっているが、その5回目のフォーラムを札幌市で開催することになったので、ご案内させていただきたい。

札幌市の上田一雄市長は、ちょうど韓国の新しいソウル市長のようなセンスを持った聡明な人で、先頃、市議会に「公契約条例」の制定を提案したのだが、反対論もあって継続審議で、仕切り直しになった。そこに、政策入札研究フォーラムの話が舞い込んで、ひよとすると「時の氏神様」になるかもと、上田市長も参加してくれる。このたびの札幌フォーラムの開催となった。

公契約とは、読んで字の如く、国や自治体の受発注業務のことで、その推計総額は65兆円に達する。これに対応する法律は、国の場合、会計法及び予算決算令で、自治体の場合、地方自治法及び施行令だ。ところが、両法とも公契約についてさしたる規定も書いておらず、自ずと「一元でも安く買い、一元でも高く買う」が規範になる。結果、官製ワーキング・プアと揶揄されるような問題が生じてしまった。そこで、公契約を公共の経営戦略という観点から見直そうというのが、公契約法あるいは公契約条例の制定というわけである。

何故、賛否かという、簡単な話で、自治体側が、発注額を据え置きにしたまま賃金の下限を最賃以上に設定する



札幌の政策入札フォーラムにさうご期待

から、受注者側が反発するという構造になる。では、氏神様はどう仲を取り持つかというと、発注側、受注側両方が付加価値を寄せ合うということ。発注者側が「公共調達」戦略で、受注者側は「雇用産業」戦略が付加価値だ。大阪の実例で言い換えれば、前者が「行政の福祉化」、後者が「総合評価入札」となるが、大阪の場合、条例(法)になっていないから、知事や市長が代わるとハラハラしてしまう。つまり、札幌市で総合評価入札が組み込まれた公契約条例が制定されると、これが画期になるかもしれないというわけだ。氏神様は、大阪では、他ならぬ障がい者雇用だったが、札幌でも障がい者団体が奔走してくれている。これで三人揃って、近江商人の「三方よし」というわけだ。

橋下市長のお蔭で、もはや明々白々となったのは、公共に水戸黄門の印籠はあっても、戦略が不在だったということ。いや、戦略がなかったのではなく、「現場」というのは気配りを重んじるあまり、案外に寡黙なものだ。このデリカシーを橋下さんが持ってくれたらと思うのだが…。ともかくも、満を持して「現場」から声をあげたのが、ここ10年来の入札改革というわけが「政策入札研究フォーラム」だ。ちょっと、手前味噌かな？この夏は、ちょっと贅沢に本場の味噌ラーメンはいかがかな？

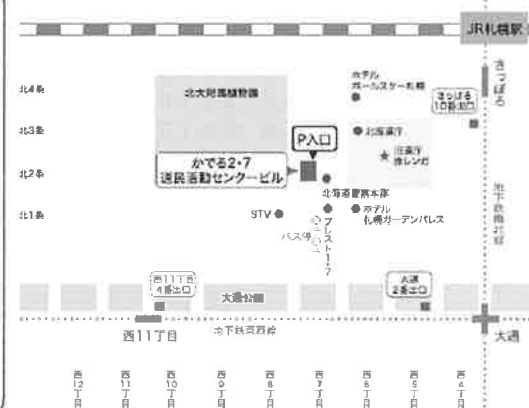
(株)ナイス代表取締役 富田一幸

# ～第5回 政策入札研究フォーラム in 札幌～ 障がい者の雇用を広げよう

2012年7月16日(月) 13:15～16:00  
北海道立道民活動センター(かでの2.7 大会議室)  
札幌市中央区北2条西7丁目

## 予定されるパネリスト

1. 開会あいさつ 札幌から  
エル・チャレンジ代表理事 富田一幸氏
2. 基調報告(これまでの取り組みから)  
エル・チャレンジ代表理事 富田一幸氏
3. 北海道における取り組みや課題の報告  
・札幌市公契約条例について(札幌市長 上田文雄氏)  
・障がい者就労関係(NPO ライフ専務理事 石澤利巳氏)  
・ビルメン企業
4. 全国(大阪)の取り組みなどの状況報告  
・“育てる入札”とは(福井県立大学教授 吉村隼兵氏)  
・“新雇用産業”(国際公認投資アナリスト小松伸多佳氏)  
・大阪における現状と課題(大阪ビルメンテナンス協会)
5. 今後について意見交換(会場からの質疑)
6. 閉会



## 政策入札研究フォーラムとは・・・

大阪ビルメンテナンス協会とエル・チャレンジは2007年より「障がい者雇用支援スタッフ養成講座」や「社会貢献セミナー」など協働事業として「障がい者等雇用促進事業」に取り組んできました。これまでも、自治体契約物件の入札制度の研究を行い「総合評価入札」など障がい者等が働きやすい制度を広げる取り組みを進めてきました。

政策入札研究フォーラムは、全国の仲間呼びかけて「働きたいを支援“エル・チャレンジ方式”」「育てる入札“総合評価入札”」「新雇用産業」振興のための、積算基準の抜本的に見直しを国や自治体に求めたいと考えています。

主催：一般社団法人大阪ビルメンテナンス協会

大阪知的障害者雇用促進建物サービス事業協同組合(エル・チャレンジ)

共催：特定非営利活動法人札幌省活動支援センターライフ

後援：全日本手をつなぐ育成会、全国ビルメンテナンス協会、共同連、ソーシャル・ファーム・ジャパン、ホームレス支援全国ネットワーク等に要請(予定)

事務局：エル・チャレンジ

大阪市中央区法円坂1-1-35 大阪市教育会館5階 Tel: (06) 6920-3521 Fax: (06) 6920-3522

担当 丸尾亮好(エル・チャレンジ事務局長) <http://www.l-challenge.com/forum/forum.html>



# ヌメ革で素敵なおもてなし コインケースを作ろう!

数字やアルファベットを自由に使って、デザインしましょう!ヌメ革で自分だけのオリジナルコインケースを作ってみませんか?

- 日時: 7月21日(土) 受付は各30分前から  
1部 13:30~  
2部 15:00~  
3部 16:30~

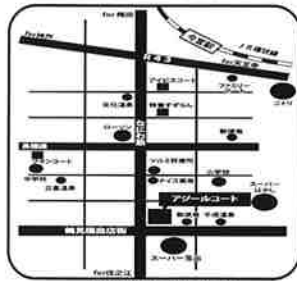
- 場所: アジュールコート1F  
(大阪市西成区鶴見橋2-12-23)

- 定員: 各部10名程度

- 参加費: 1,000円(材料費込)

- 参加方法: 事前予約が必要となります。  
下記へご連絡ください。

- 問い合わせ: TEL 06-6561-9990  
Mail wakamatsu@n-net.gr.jp  
(西成企業連内 担当 若松)



地図はこちら↑

私とお友達になれそうですか?  
あなたはどうな方ですか?  
なんて私は空想しながら早くあなたに逢いたくて、お母さんと毎日水やりしています。ワンワン!!

私とお友達になれそうですか?  
あなたはどうな方ですか?

あつと言っ間にお喋りさんになるんだって。

あつと言っ間にはまだ無口なんだけど、

あつと言っ間にはまだ無口なんだけど、

私が誰?とクンクン挨拶していると、

お客がやってきた。

我が家のベランダに今年も三人の

お客がやってきた。

夏限定のお客様  
プーンとパンパキ



# hidarimakiの この逸話 勝手にしやがれ



監督: ジェローム・ゴダール  
原案: フランソワ・トリフォール  
撮影: ラウル・クタル  
キャスト: ジェン・セバーグ、ジャン・セバーグ  
製作: 1959年  
モノクロ作品 89min  
前巻: ジェン・セバーグ

「勝手にしやがれ」は、ゴダールの長編第一作目であるといわれている。ゴダールはこれまでの映画文法としての整合性と調和を無視した張本人だった。ストーリーに必要な話しの連続性がカットされる(ジャンピングカット)技法で映画を大きく変えたのである。観客は、登場人物の関係性やシチュエーションの関連性などに、不安や理解不能を抱かされるはめになった。おかげで従来どおりの筋書きを追い求め、物語の展開を楽しんでいた僕たちは、ゴダールによって、娯楽としての映画に緊張と思考を強いられてしまったのだった。

映像の中の主人公が観客に語りかけたり、延々と執拗で間断なく男女の会話が続くシーンに、大いなる意味を与えられているのだと勘違いしたり、その場のシーンが何を訴えているのだろうとその場面に拘泥し、その結果、映画を追うことで疲労してしまうのだった。つまりゴダールの思うツボにはまってしまい、木を見て森を見ずの状態にさせられてしまうことであった。だからゴダールの作品が公開されるたびに、よせばいいのに負けを覚悟で、しかしゴダール

ルが気になるものだから、誘導されて見に行く結果となる。そもそもゴダール作品につき合わされてきた理由とは、単純に言えば、飽くなきゴダールの映画文法に打ち負かされても、自分のプライドが許さないものだから、ゴダールに迫ってやろうと考えるからだった。だから、段々とゴダールの魔術にはまっていく。そしてあなたの手の内はこうだなどと、少しばかり監督のたくらみ(と思われること)などを発見した時、内心誇らしげにつぶやいたりすることもまれにはあるので癖になる。

「勝手にしやがれ」は、フランスのチンピラ(J=ポール・ベルモント)とアメリカの女子学生(ジーン・セバーグ)の恋物語である。どんなシチュエーションがあって、どんな背景が彼らをつなげたのか、そんな瑣末な問題はゴダールにとってはまったくこだわりのない。また観客にとって、彼らの恋は本当に成立しているのかいないのかさえわからない不確かさなのだ。突然現れる主人公と絡むギャングや刑事、女子学生とつきあう男の出現など、刹那的なストーリー展開に僕はうんざりさせられた。そして当時の観客の多くもきっとこれは何だといううんざり感を味わわれたと想像する。

そして、ベルモントまでもが劇中で「もううんざりだ」という言葉を残し女に裏切られて死んでいく。そして「うんざりってどういう意味?」というセバーグの言葉が恋の迷走と、監督のくわだてをシンボリックにあらわしていたという具合だ。

警官に撃たれたチンピラは、ヨタヨタとバリの街路を逃げ回るのだが、このシーンは実にかっこよくて、この映画は、今見ると喜劇だったのだとわかる。監督がこの作品のあとに撮り、やはりベルモントが主人公となって大活躍した「気狂いピエロ」(なび10年3月号参照)を姉妹編と見ても面白い逸編であった。

hidarimaki





厨房見聞録  
ベッラファアーベ

@フルーツマトの冷たいパスタ

<材料> 4名分



- ・カッペリーニ..... 120g
- ・フルーツマト..... 4個
- ・にんにくのみじん切り..... 小さじ1/4
- ・レモン汁..... 10cc
- ・バジリコのペースト..... 30cc
- ・エクストラバージン、オリーブ油..... 40cc
- ・塩、コショウ..... 少々



<作り方>

- ①:フルーツマトは皮を湯むきし、縦6等分する。
- ②:ボールにフルーツマト、にんにくのみじん切り、レモン汁、エクストラバージンオイル、塩、コショウを入れて混ぜ合わせる。
- ③:パスタが茹で上がるまで冷蔵庫に入れて味をなじませる。
- ④:鍋にたっぷりの湯を沸かし、少し多めの粗塩をとかし、パスタをアルデンテよりも少し柔らかめにゆで上げる。
- ⑤:氷水に落として手早く冷まし、②をざるに取り、押さえるようにしてしっかりと水気を切る。(さらにペーパータオルで水気を十分に取る。)
- ⑥:②を⑤に加えて混ぜ合わせ、塩、コショウで調味する。
- ⑦:冷やしておいた皿に盛り、バジリコのペーストを散らして、出来上がり。



ランチ提供:ベッラファアーベ

ベッラファアーベの  
＜おとなたちの隠れ家会議＞によろそ!

ベッラファアーベで、＜おとなたちの隠れ家会議＞がはじまります。  
私たちの身近な問題をテーマに食事しながらおしゃべりをします。  
ゲストの問題提起をうけ、みんなで意見を出しあうのです。  
第5回は、今も私たちの問題であり続ける沖縄がテーマです。  
ユニークなディナー・トークにご参加ください

おとなたちの隠れ家会議  
第5回テーマ ーうちなんちゅのこころー

ゲスト

日 時:7月13日(金) 18:30～21:00

料 金:4,000円(1ドリンク付)

予約制:06-6568-3443まで

場 所:ベッラファアーベ

主 催:楽塾